

INTESTINE

第 22 卷 ● 総目次

Vol.22 / No. 1 ~ No. 6

(2018 年 1・2 月 ~ 11・12 月号)

|||||| 今月の特集 |||||||

- No. 1 IBD 関連大腸腫瘍の診断・治療 update
- No. 2 内視鏡治療の偶発症と対策
- No. 3 病態から考え出された IBD 治療の進歩
- No. 4 炎症性腸疾患の粘膜治療を考える
- No. 5 大腸腫瘍の分子生物学
- No. 6 大腸内視鏡の話題—機器と挿入法

● Vol.22 No.1 IBD 関連大腸腫瘍の診断・治療 update

序 説	平田 一郎	5-7
I. 潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の病理診断 update	田邊 寛・岩下 明德	9-17
II. 潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の通常内視鏡所見の特徴	岩男 泰	19-22
III. 拡大内視鏡(色素・IEE)による潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の診断	岡 志郎・田中 信治・松本 健太 林 亮平・上野 義隆・茶山 一彰	23-32
IV. 超拡大内視鏡による潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の診断	工藤 進英・小形 典之・大塚 和朗 若村 邦彦・笹沼 靖子・森 悠一 三澤 将史・工藤 豊樹・林 武雅 石田 文生	33-39
V. 潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の深達度診断	小林 清典・齋藤 友哉・松本 育宏 川岸 加奈・迎 美幸・横山 薫 佐田 美和・小泉和二郎	41-46
VI. 潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍に対する至適サーベイランス法の検討—Targeted biopsy vs Random biopsy	畑 啓介・品川 貴秀・渡邊 聡明	47-51
VII. 潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対する至適サーベイランス法の検討—インジゴカルミ		

ン色素散布法 vs NBI 法		
渡辺 憲治・樋田 信幸・宮崎 孝子 佐藤 寿行・河合 幹夫・上小鶴孝二 高川 哲也・横山 陽子・中村 志郎		53-58
VIII. 潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の治療方針と経過観察	樋田 信幸・中村 志郎	59-64
IX. [話題提供] 潰瘍性大腸炎に対するサーベイランス：SCENIC international consensus statement	川崎 啓祐・松本 主之	65-70
X. 潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の危険群絞り込みの新規バイオマーカー：DNA メチル化	田原 智満・平田 一郎・柴田 知行 大宮 直木	71-75
XI. クロウン病関連大腸腫瘍の診断とサーベイランス	矢野 豊・別府 剛志・高田 康道 安川 重義・岸 昌廣・平井 郁仁 植木 敏晴・八尾 建史・松井 敏幸	77-83

● Vol.22 No.2 内視鏡治療の偶発症と対策

序 説	藤井 隆広	109-110
I. 大腸内視鏡検査・治療のインフォームド・コンセントの実際	佐藤 純也・堀田 欣一・伊藤 紗代 今井健一郎・岸田 圭弘・小野 裕之	111-115
II. 術前・術中投与薬剤による偶発症と対策	小田島慎也・藤城 光弘	117-121

Ⅲ. 抗血栓薬と内視鏡治療		清原 裕貴・水野 慎大・金井 隆典	229-235
二宮 悠樹・岡 志郎・田中 信治		Ⅲ. 新規抗 TNF- α 抗体製剤	
田中 秀典・保田 智之・茶山 一彰	123-130	竹内 健	237-243
Ⅳ. 大腸 EMR (cold polypectomy を含む) の偶発症の実態—文献の review		Ⅳ. IL-12/23 阻害薬	
樫田 博史	131-138	小林 拓	245-249
Ⅴ. 大腸 EMR における出血と穿孔に対する対策		Ⅴ. SMAD7 阻害薬	
安江 千尋・斎藤 彰一・西川 雄祐		久松 理一	251-254
井出 大資・千野 晶子・為我井芳郎		Ⅵ. 各種 JAK 阻害薬	
五十嵐正広	139-144	秋田 義博・猿田 雅之	255-259
Ⅵ. 大腸 ESD の偶発症と実態—文献の review		Ⅶ. 抗 $\alpha 4\beta 7$ インテグリン抗体製剤	
吉田 直久・稲田 裕・村上 貴彬		梁井 俊一・松本 主之	261-265
廣瀬 亮平・内藤 裕二・小木曾 聖		Ⅷ. S1P 受容体アゴニスト	
伊藤 義人	145-153	飯島 英樹・新崎信一郎・井上 隆弘	
Ⅶ. 大腸 ESD における出血と穿孔に対する対策		川井翔一郎・山口 利朗・岩谷 修子	
高丸 博之・斎藤 豊・山田 真善		良原 丈夫・竹原 徹郎	267-271
関口 正宇・坂本 琢・松田 尚久	155-163	Ⅸ. 経口 $\alpha 4$ インテグリン阻害薬	
Ⅷ. 大腸ステント留置術の偶発症とその対策		松岡 克善・渡辺 守	273-276
桑井 寿雄・山口 敏紀・今川 宏樹		Ⅹ. プデソニド経口剤	
高砂 健・西村 朋之・山口 厚		河合 幹夫・中村 志郎	277-281
河野 博孝・高野 弘嗣	165-171	Ⅺ. プデソニドフォーム	
Ⅸ. 小腸内視鏡治療の偶発症と対策		長沼 誠・金井 隆典	283-288
矢野 智則・山本 博徳	173-176	Ⅻ. 腸内細菌を標的とした治療	
Ⅹ. 偶発症の対応における Knack and pitfall		安藤 朗	289-294
(1) 高周波電源装置と偶発症		● Vol.22 No.4 炎症性腸疾患の粘膜治療を考える	
吉村 兼・豊永 高史	177-182	序 説	緒方 晴彦 309-310
(2) 切除後潰瘍と穿孔縫縮法のコツと注意点		Ⅰ. 総 論—炎症性腸疾患における粘膜治療の定義と臨床的意義	
a. クリップによる縫縮法		梁井 俊一・松本 主之	311-317
鳴田賢次郎・永田 信二・小川裕太郎		Ⅱ. 各 論	
下原 康嗣・玉理 太覚・朝山 直樹		(1) 潰瘍性大腸炎の画像診断 modality	
青山 大輝・福本 晃・向井 伸一	183-188	a. 通常内視鏡	
b. 留置スネアによる巾着縫合法		吉田 篤史	319-323
日原 大輔・高丸 博之・坂本 琢		b. 色素拡大内視鏡・NBI	
山田 真善・関口 正宇・松田 尚久		渡辺 憲治・樋田 信幸・宮崎 孝子	
斎藤 豊	189-192	佐藤 寿行・河合 幹夫・上小鶴孝二	
c. Ring-clip による縫合法		高川 哲也・横山 陽子・中村 志郎	324-329
吉井 新二・江上 太基・鈴木茉理奈		c. LCI/BLI	
宮本 大輔・太宰 昌佳・小野寺 学		内山 和彦・高木 智久・内藤 裕二	330-335
横山 朗子	193-196	d. 超拡大内視鏡	
d. OTSC		小形 典之・工藤 進英・前田 康晴	
村元 喬・大團 研・木本 義明		森 悠一・三澤 将史・大塚 和朗	
小西 隆文・石井 鈴人・小川さや香		笹沼 靖子	336-341
根岸 良充・瀧田麻衣子・酒井 英嗣	197-201	e. カプセル内視鏡	
● Vol.22 No.3 病態から考え出された IBD 治療の進歩		細江 直樹・堀江 知史・宮永 亮一	
序 説	藤井 俊光・渡辺 守 221-224	木村佳代子・水野 慎大・高林 馨	
Ⅰ. IBD の病態		長沼 誠・緒方 晴彦・金井 隆典	342-345
仲瀬 裕志	225-228	(2) クロウン病の画像診断 modality	
Ⅱ. 世界における IBD 新規薬剤開発動向		a. バリウム X 線造影	
		江崎 幹宏	347-351
		b. 通常内視鏡	
		高田 康道・高津 典孝・平井 郁仁	352-357

c. カプセル内視鏡	長坂 光夫・大宮 直木	358-363	久保 俊之・山野 泰穂・山本英一郎	
d. MR enterography, CT enterography	竹内 健	364-370	三橋 慧・鈴木 拓・長谷川 匡	485-492
Ⅲ. 組織学的粘膜治癒の診断基準を考える	太田 敦子・岩下 明德・田邊 寛		永塚 真・菅井 有・仲瀬 裕志	
	金城 健・池園 剛	371-378	(4) Attenuated FAP が疑われた症例	
● Vol.22 No.5 大腸腫瘍の分子生物学			高丸 博之・菅野 康吉・春日 健吾	493-500
序 説			斎藤 豊	
実臨床に向けた大腸腫瘍の分子生物学	平田 一郎	399-401	● Vol.22 No.6 大腸内視鏡の話題	
I. 大腸腫瘍の分子生物学とは一臨床医が理解するための基本			一機器と挿入法	
山本 博幸・渡邊 嘉行・辻 顕介			序 説	工藤 進英 517-518
加藤 正樹・清川 博史・佐藤 義典			I. 挿入の基本	
松尾 康正・山下 真幸・安田 宏			(1) 太径スコープ	
伊東 文生	403-413		工藤 豊樹・豊嶋 直也・森 悠一	
II. 大腸腫瘍の分子異常と臨床			三澤 将史・小形 典之・久行 友和	
三森 功士・神山 勇太	415-420		林 武雅・若村 邦彦・馬場 俊之	
III. 大腸腫瘍におけるエビゲノム異常			澤田 成彦・石田 文生・工藤 進英	519-528
金田 篤志・八木 浩一・酒井 英嗣			(2) 細径スコープ	
松坂 恵介・高根希世子・岡部 篤史	421-428			五十嵐正広 529-535
IV. 大腸腫瘍の分子異常と病理診断			(3) 極細径スコープ(オリンパス PCF-PQ260)	
菅井 有・永塚 真	429-435		津田 純郎	536-542
V. 癌の浸潤転移と分子生物学			II. 受動湾曲・高伝達挿入部・硬度可変機能付きスコープ	
神藤 英二・深澤 智美・梶原 由規			(1) 利点(メリット)	
望月 早月・岡本 耕一・山寺 勝人				山野 泰穂 543-549
津田 均・上野 秀樹	437-442		(2) 欠点(デメリット)	
VI. 遺伝性(家族性)消化管腫瘍における分子異常			田中 信治・住元 旭・保田 和毅	
田村 和朗	443-450		山下 賢・田中 秀典・松本 健太	
VII. 炎症性発癌と分子異常			岡本 由貴・稲垣 克哲・二宮 悠樹	
田原 智満・平田 一郎・柴田 知行			林 奈那・岡 志郎・茶山 一彰	550-553
大宮 直木	451-456		III. 体位変換・用手圧迫・呼吸調節	
VIII. 大腸癌化学療法と分子生物学			樫田 博史	555-561
川崎 健太・浜本 康夫	457-462		IV. 挿入補助具	
IX. 分子生物学から見た大腸腫瘍―課題と将来展望			(1) キャップ(先端アタッチメント, フード)	
三代 雅明・水島 恒和・土岐祐一郎			七條 智聖・竹内 洋司・岩坪 太郎	
森 正樹	463-468		松浦 倫子・前川 聡・金坂 卓	
X. 分子生物学的解析のできた症例			東野 晃治・上堂 文也・石原 立	563-566
(1) SSA/P with cytological dysplasia の1例			(2) バルーン内視鏡	
加藤文一郎・原田 英嗣・松下 弘雄			a. シングルバルーン	
吉川健二郎・田中 義人・山野 泰穂			大塚 和朗・福田 将義・竹中 健人	
東海林琢男・榎本 克彦・山本英一郎			鈴木 康平・長堀 正和・藤井 俊光	
鈴木 拓	469-476		齊藤 詠子・小林 正典・渡辺 守	567-569
(2) SSA/P 由来 MSS 型大腸癌の1例			b. ダブルバルーン	
川崎 啓祐・永塚 真・梁井 俊一			砂田圭二郎・篠崎 聡・竹澤 敬人	
石田 和之・遠藤 昌樹・中村昌太郎			小林 泰俊・坂本 博次・林 芳和	
菅井 有・松本 主之	477-484		矢野 智則・山本 博徳	570-575
(3) 拡大内視鏡診断と分子生物学的解析が可能であった TSA の癌化症例			(3) スライディングチューブ	
			河野 弘志・上野恵里奈・小林 起秋	
			菅原 脩平・後藤 諒介・深水 航	
			柴田 翔・渡邊裕次郎・山田 康正	576-579
			(4) Water jet(浸水法)	
			日下 利広・大岩 容子・田中 泰敬	
			藤井 茂彦・國立 裕之	580-583
			(5) 炭酸ガス送気	

中村 佳子・角川 康夫・関口 正宇 高丸 博之・山田 真善・坂本 琢 松田 尚久・斎藤 豊	584-586	迎 美幸 (4) 医療側・患者側の要因から考える対応 藤井 隆広	594-596 597-600
V. 挿入困難例への対応—私はこうしている (1) Non push 法で挿入する工夫とスコープ 選択で乗り切ろう	安藤 正夫	仲道 孝次	601-604
(2) 挿入困難例こそ軸保持短縮法 松下 弘雄・吉川健二郎・原田 英嗣 加藤文一朗・吉田 優子・田村 恵理 佐々木 真・高木 亮	587-590 591-593	池松 弘朗・新村 健介 (7) 細やかな左右アングル、腹部圧迫および 体位変換を併用した挿入法 吉田 直久・井上 健・安田 律 村上 貴彬・廣瀬 亮平・内藤 裕二 小木曾 聖・稲田 裕・伊藤 義人	605-607 608-611
(3) 挿入困難原因に応じた対策			

TOPICS

Vol.22 No.1 潰瘍性大腸炎における超拡大内視鏡による組織学的寛解評価の有用性 中里 圭宏・長沼 誠・緒方 晴彦 岩男 泰・金井 隆典	85-87	Vol.22 No.4 microRNA メチル化パネルを用いた潰瘍性大腸炎癌化リスク診断 間山 裕二・奥川 喜永・田中 光司 荒木 俊光・内田 恵一・菱田 朝陽 内野 基・池内 浩基・廣田 誠一 楠 正人・C Richard Boland Goel Ajay	379-382
潰瘍性大腸炎に対する抗菌剤併用便移植療法における腸内細菌叢の変化 石川 大・高橋 正倫・芳賀 慶一 伊藤 翔子・岡原 昂輪・澁谷 智義 長田 太郎・永原 章仁	88-90	Sessile serrated adenoma/polyp with cytological dysplasia の内視鏡的、分子生物学的特徴 田中 義人・山野 泰穂・山本英一郎 松下 弘雄・菅井 有・鈴木 拓	383-385
長期炎症による大腸上皮培養細胞形質変化 日比谷秀爾・土屋輝一郎・渡辺 守	91-94	Vol.22 No.5 クローン病における小腸内視鏡的治療に対する MRI 検査の有用性 竹中 健人・大塚 和朗・北詰 良雄 松岡 克善・長堀 正和・藤井 俊光 齋藤 詠子・木村麻衣子・藤岡 友之 渡辺 守	501-504
Vol.22 No.2 ストレス応答蛋白 RBM3 は炎症性腸疾患関連大腸癌の発生を促進する 櫻井 俊治・工藤 正俊	202-203	Chronic enteropathy associated with <i>SLCO2A1</i> gene [CEAS] —クローン病と鑑別すべき腸管粘膜障害の特徴 細江 直樹・緒方 晴彦・金井 隆典	505-507
腸間膜静脈硬化症の病因としての漢方薬の関与について：大規模全国調査の結果 清水 誠治・小林 拓・富岡 秀夫 大津 健聖・松井 敏幸・日比 紀文	204-207	Vol.22 No.6 拡大内視鏡を用いた早期大腸癌深達度診断に関する研究—Web 読影試験 坂本 琢・松田 尚久・斎藤 豊	612-613
Vol.22 No.3 大腸 ESD 423 例の長期臨床予後—単施設の週及的研究 山田 真善・斎藤 豊・高丸 博之 坂本 琢・中島 健・松田 尚久	295-298	大腸 T1 癌内視鏡摘除後の追加腸切除の選択に、人工知能が有用となる可能性 一政 克朗・工藤 進英・森 悠一 三澤 将史・神山 勇太・工藤 豊樹 林 武雅・若村 邦彦・石田 文生	614-617
Cold snare polypectomy の遺残割合—単施設前向き観察研究 松浦 倫子・竹内 洋司・山階 武 伊藤 貴史・青井 健司・長井 健吾 金坂 卓・松井 芙美・藤井 基嗣 赤坂 智史・鼻岡 昇・東野 晃治 富田 裕彦・伊藤 ゆり・石原 立 飯石 浩康・上堂 文也	299-302		

|||||| 大腸Ⅱc 研究会優秀演題 |||||||

Vol.22 No.1

[第 25 回優秀演題]

病理・遺伝子背景において興味深い所見を呈
した上行結腸癌の 1 例

田中 義人・山野 泰穂・松下 弘雄
永塚 真・菅井 有・山本英一郎
鈴木 拓

95-102

Vol.22 No.2

[第 26 回優秀演題]

大腸 Interval cancer の責任病変は？

藤井 隆広

208-214

Vol.22 No.4

[第 27 回 Young Award]

SM 深部浸潤を呈した 8mm 大のⅠs+Ⅱc 病
変

望月 健一・工藤 進英・森 悠一
武田 健一・馬場 俊之・石田 文生

386-390

|||||| 特別寄稿 |||||||

災害時における IBD 患者への対応：ストー
マ患者への対応を中心に

内野 基・岡山カナ子・池内 浩基

394-395

『INTESTINE』編集委員会(2018 年 11 月現在, 五十音順)

編集主幹

工藤 進英／日比 紀文

編集委員

今村 哲理／岩下 明德／大倉 康男／緒方 晴彦／鈴木 康夫／田中 信治／鶴田 修／
平田 一郎／藤井 隆広／松本 主之／山野 泰穂／山本 博徳／渡辺 守